

所内学術講演、セミナー、研究懇話会、ワークショップリスト

所内学術講演およびセミナー

(2018年4月1日-2019年3月31日)

下記の口頭発表(日付順)が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

中溝 知樹、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター神経内科医長、「心房細動患者の脳卒中発症リスクにおける非発症効果」5月31日

土居 主尚、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所主任研究員、「放射線疫学における統計的な側面からの挑戦—ソフトウェア開発から新規解析モデルの開発まで」6月26日

山村麻理子、広島大学大学院 教育学研究科講師、「私の研究歴」7月2日

Meredith Yeager、米国国立がん研究所がん疫学・遺伝学部がんゲノミクス研究室研究担当部長、「米国国立がん研究所がん疫学・遺伝学部で行われたゲノム研究」7月5日

Philip Montgomery、米国テキサス医学センター図書館マクガバーン歴史センター所長、「科学と文化の衝突：ABCCの起源と記録文書へのアクセスの必要性」7月20日

Sangchoon Jeon、米国イェール大学 看護学校研究員、「がん患者の多次元的症状を評価するための潜在 クラスモデル」9月13日

Benjamin French、放射線影響研究所統計部副部長/部長代理、「原爆被爆者研究における未観測の交絡」10月10日

Carmen D. Tekwe、米国テキサスA&M保健科学センター公衆衛生大学院疫学&生物統計学部助教授、「関数多重指標、多重原因測定誤差モデル」11月29日

Robert Grossman、米国シカゴ大学 医学部・コンピューター科学部教授、「Gen3を活用したデータ・コモンズ(データ共有地)構築について」1月7日

Richard Sposto、米国南カリフォルニア大学ケック医学部ロサンゼルス小児病院(CHLA) 予防医学・小児科研究教授、「人種・民族による乳がん死亡率の相違に対する患者および状況の特性が及ぼす影響」1月15日

加藤 直広、統計数理研究所医療健康データ科学研究センター特任助教、「大規模データにおける混合階層モデルによるランキング手法の開発」1月16日

Christy Henshaw、ウェルカム・コレクションデジタル制作部長、「ウェルカム・コレクションでのデジタル制作作業について」3月5日

Joachim Schuz/Evgenia Ostroumova/Ljubica Zupunski、国際がん研究機構、「IARCにおける環境放射線研究について」3月11日

放影研研究懇話会

(2018年4月1日 - 2019年3月31日)

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的意見を得ることを目的とする。

Harry M. Cullings、統計部長、演題「放影研での線量研究－過去、現在、そして未来」5月18日

佐藤 康成、分子生物科学部研究員、演題「マウスモデルを用いた放射線の継世代遺伝影響のゲノムワイド解析」7月20日

Alina Brenner、疫学部主任研究員／歌田 真依、疫学部研究員、演題「乳房および子宮体部がんの放射線リスク、女性の生殖背景と組織幹細胞に関連して」9月14日

大石 和佳、臨床研究部長、演題「保存試料を用いた原爆被爆者の胃がんに関するコホート内症例対照研究」12月21日

ワークショップ

(2018年4月 - 2019年3月)

以下のワークショップはすべて英語で開催されたため、講演のタイトルは英語のままとしています。

1. 国際放射線防護委員会（ICRP）－放影研交流セミナー

開催日：2018年12月10日

開催場所：放影研 広島研究所 講堂

招待講演者（講演順）：

Werner Ruehm、ヘルムホルツ協会、ドイツ、ミュンヘン

“Research need for radiation protection”

Michael Hauptmann、オランダ癌研究所、オランダ

“Radiation exposure from pediatric CT scans and cancer risk”

Andrzej Wojcik、ストックホルム大学放射線防護研究センター、スウェーデン

“Biological effectiveness of very high gamma dose rate”

放影研の講演者：

坂田 律、疫学部 副部長

“Upper gastrointestinal tract cancer among LSS”

定金 敦子、疫学部 主任研究員

“Intrinsic subtypes of radiation-associated breast cancer among female atomic bomb survivors”

今泉 美彩、長崎臨床研究部 副部長

“Thyroid diseases in childhood exposure”

吉田 健吾、分子生物科学部 免疫学研究室長

“Longitudinal analyses of clinical data and biosamples”

濱崎 幹也、分子生物科学部 細胞遺伝学研究室 研究員

“Fetal hematopoietic stem cells are hyposensitive to radiation for induction of persisting chromosome aberrations—how are the damaged cells eliminated?”

John Cologne、統計部 主任研究員

“Plan for re-analysis of peripheral blood lymphocyte chromosome aberration frequencies in the in utero exposed survivors”

内村 有邦、分子生物科学部 分子遺伝学研究室長

“Germline de novo mutations in laboratory mice”

その他の招待参加者：

Kimberly E. Applegate、米国ケンタッキー大学

Michel Bourguignon、パリ大学サクレール校 (UVSQ) およびフランス放射線防護原子力安全研究所

Claudia E. Ruebe、ザールラント大学、ドイツ

甲斐 倫明、大分大学

Christopher H. Clement、ICRP 科学幹事、カナダ

藤田 博喜、ICRP 科学副幹事、カナダ

川口 勇生、ICRP インターン、カナダ・放射線医学総合研究所

2. ICRP – 量子科学技術研究開発機構 – 放影研ジョイントワークショップ

「放射線に対する個々人の応答」

開催日：2018年12月12日

開催場所：国立がん研究センター

国際放射線防護委員会（ICRP）、量子科学技術研究開発機構（QST）、および放射線影響研究所（RERF）が開催するワークショップ

日本国立がんセンター（NCC）、日本放射線腫瘍学会（JASTRO）、日本医学放射線学会（JRS）、日本保健物理学会（JHPS）、日本放射線影響学会（JRRS）と共同開催

招待講演者（講演順）：

Werner Ruehm、ヘルムホルツ協会、ドイツ、ミュンヘン

Kimberly E. Applegate、米国ケンタッキー大学

“Setting the Scene”

Andrzej Wojcik、ストックホルム大学放射線防護研究センター、スウェーデン

“Human Individual Radiation Sensitivity and Prospects for Prediction Factors”

Michael Hauptmann、オランダ癌研究所、オランダ

“Genetic susceptibility to radiation induced breast cancer after Hodgkin Lymphoma”

Michel Bourguignon、パリ大学サクレール校（UVSQ）およびフランス放射線防護原子力安全研究所

“Radiosensitivity and radiotherapy patients”

数藤由美子、国立放射線科学研究所、放射線科学技術センター、日本

“Individual difference of chromosome aberration in accidentally exposed workers”

大西 洋、山梨大学

“Individual difference of post irradiated antitumor effect and lung damage in patients with lung cancer”

赤羽 正章、国際医療福祉大学薬学部

“Individual variation in clinical practices and protocols”

放影研の講演者：

Alina Brenner、疫学部 主任研究員

“Age-dependence of breast cancer risk”

小笹晃太郎、疫学部長

“Lifestyle-related cancer risk: Smoking and cancer”

3. 国際ワークショップ「クローン造血と放射線関連疾患」

開催日：2019年1月10 - 11日

開催場所：放影研 広島研究所 講堂

招待講演者（講演順）：

田口 正剛、長崎大学病院

宮崎 泰司、長崎大学原爆後障害医療研究所

“Hematological malignancies in atomic bomb survivors”

高橋 康一、テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター

“Leukemic potential of clonal hematopoiesis and the association with external stressors”

Adam Sperling、ダナ・ファーバーがん研究所

“Clonal hematopoiesis in malignant and non-malignant disease”

波江野 洋、国立がん研究センター東病院

“Mathematical modeling of the cell of origin in myeloid malignancies”

樗木 俊聡、東京医科歯科大学

“Identification of a human monocyte progenitor”

Jose Fuster、スペイン国立心臓血管研究センター

“Somatic mutation-driven clonal hematopoiesis: a new player in atherosclerotic and cardiometabolic disease”

大石由美子、日本医科大学

“Coordinated mechanism of cellular metabolism and inflammatory response in macrophage”

Serge Candéias、グルノーブル バイオサイエンス&バイオテクノロジー研究所

“Dynamics of the antigenic T cell receptor repertoire in response to radiation exposure and during ageing”

放影研の講演者：

小笹晃太郎、疫学部長

“Overview of Epidemiological Studies at RERF”

吉田 健吾、分子生物科学部 免疫学研究室長

三角 宗近、統計部 研究員

“Plans and preliminary data for clonal hematopoiesis studies at RERF”

オブザーバー：

南谷 泰仁、京都大学